令和6年度　江戸川区立篠崎第三小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	「かがやけ篠三っ子」 かんがえる子【重点目標】　がんばる子　やさしい子　けんこうな子		目指す学校像	子供たちが、毎日生き生きと輝く学校 教職員が、働く喜びを感じられる学校 保護者・地域が、信頼を寄せる学校
前年度までの本校の現状	成果	確かな学力の定着に向け、確かな学力向上推進プランに基づいた授業を行い、補習等個に応じた指導を継続してきたことで、学力向上に向けての基礎作りができた。また、生活面では、豊かな心づくりの取組を行い、学校全体として、児童は落ち着いて学校生活を送ることができた。	課題	学力調査の結果は、徐々に向上しているが、都や全国の平均と比べると以前低い状況であった。また、生活指導面では個別の支援が必要な児童について組織的に対応していくことが必要である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	**・「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」に基づいた指導の実践**	・毎学期2回の東京ベーシックドリル診断テスト実施・分析・強化 ・家庭学習週間　学期２週間×３回	・東京ベーシックドリル診断テスト７割達成者７０％以上（令和８年度までに）。	B	B	B	○東京ベーシックドリル診断テスト７割達成者が１学期５７．４％、２学期が５５．６％であった。４，５年生は今年度からの取組である江戸川区定着度調査の結果を使用しているため、正答率も下がり７割達成者割合も下がっている。 ○全国学力調査において、「授業時間以外の勉強時間」が１時間以上の割合は４９％であった。しかし都の割合は６２．２％、全国の割合は５５％であり、都や全国と比べると本校児童の勉強時間は少ないことが分かる。家庭学習週間の取組の報告として、平均時間や児童の傾向を伝える保護者への啓発資料を作成した。 ○担任や外部講師による補習は予定通り実施できている。	B	○繰り返し取り組むことで、少しずつ数値が上がっている。繰り返しの大切さを子供たちに実感させたい。 ○勉強時間を増やすためには、子供がダイニングテーブルで勉強している傍で大人が勉強したり仕事をしたりすると良いのでは。	B	○東京ベーシックドリル診断テストを学期に２度行ったが、７割達成者が１学期５７．４％、２学期が５５．６％→５６．２％、３学期が１回目６１％となった。学期に２度行い、正答率が低いところを強化することで定着が図ることができたので、今後も続けていく。 ○全国学力調査において、「授業時間以外の勉強時間」が１時間以上の割合は令和４年度４１．１％→令和５年度５０％→令和６年度３２％であった。都の割合は５４％、全国の割合は４８％であり、都や全国と比べると本校児童の勉強時間は少ないことが分かる。<br　そこで、家庭学習週間の取組の報告として、平均時間や児童の傾向を伝える保護者への啓発資料も作成した。学年でもある程度時間がかかる宿題量をだすようにしている。今後も引き続き学力向上に向けての取組を実施していく。 ○担任や外部講師による補習は予定通り実施できている。	B	○授業以外の勉強時間が平均より少ないのは、塾に通う子が少ないことや家庭での学習習慣が十分に身についていないことが原因かもしれない。これを改善するには、「勉強は楽しい。」と思えるようにすることが必要である。学校では、宿題に工夫を加えると自ら学ぶ意欲を高められるかもしれない。家庭では、結果だけではなく学ぶ過程を大切にする声かけをすると良いと思う。 ○みんな一律ではない。良いところを伸ばして苦手なところを助け合って取り組んでほしい。 ○個に合わせた取組として、タブレットの活用は良いと思うが、反面、好きなものばかりやってしまう様子が見られる。現代社会ではICTを使えないと生きていけない。最新のものを取り入れながら、一人一人児童の様子を見ながら声かけしていくことが必要である。	○今年度、「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」に基づき、組織的な取組を行った。毎月の運営委員会では、学力向上について話し合い、取組の分析を行い共通理解を図った。次年度も令和８年度までの目標達成に向けて組織的に取り組んでいく。 ○今年度は「積極的な聞き手を育てる学習活動の工夫～国語科を中心として～」を研究主題として校内研究に取り組んだ。主題に迫る手立てを日常の授業から考えPDCAサイクルに基づいた授業改善を行っていく。 ○次年度、実態を見ながら２学期以降１年生の補習も実施していく。
	・教員の授業力向上	・教員の授業力向上を図る研究・研修の実施	・年間4回の校内研究授業実施。 ・年間3回のICT研修の実施。	B	B	B	○計画通り実施し、授業力向上に努めている。夏季休業日中も研修に励み、学んできたことを共有する様子が見られた。	A	○指導力向上のため、教育委員会や講師の先生を招いて研修会やディスカッションを行っていることが良かった。 ○夏季休業日中にも教職員が１０５回の研修に参加し、研究と修養に努める姿は素晴らしいと思う。	B	○「積極的な聞き手を育てる学習活動の工夫～国語科を中心として～」を研究主題として校内研究に取り組んだ。児童のアンケートや児童の様子から目指す児童にせまることができ一定の成果を上げることができたといえる。今年度の研究で取り組んだ話し方・聞き方を今後も継続していきたい。	B	先生方の本分はやはり授業だと思うので、これからも学び続けてほしい。大人たちが学ぶ姿を子供たちに見せることは必要。	○今年度の成果と課題を確認し、校内研究全体会で次年度の研究主題と教科について話し合った。次年度に改めてこれまでの経緯を確認した上で決定していく。
	・読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・６月学校公開での全学級読書科公開 ・週2度の朝読書の実施	・週に２時間程度 一人一台端末や図書館の蔵書を併用した主体的で探求的な学習活動の実施。	B	B	B	○年間３５時間、読書科のねらいに迫る内容の授業を行っている。 ○図書ボランティアによる読み聞かせを毎週実施し、本に親しむことができた。 ○学校図書館はいつも整理されている。	A	○ウエズレーの会の読み聞かせは、子供たちの国語力を身に付ける一助になっていると思う。引き続きこの活動を実施してほしい。	B	○年間３５時間、読書科のねらいに迫る内容の授業を行っている。 ○図書ボランティアによる読み聞かせを毎週実施し、本に親しむことができた。 ○学校図書館はいつも整理されている。	A	いつも子供たちのために活動していただき大変ありがたく思っている。	○読書科コンクールや調べる学習コンクールへの参加、６年生と１年生、５年生と２年生の読み聞かせ等、活動の充実を図る。
体力の向上	**・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実**	・体育学習の充実 ・体力の向上 ・教員の研修の充実	・江戸川っ子なわ跳びチャレンジの取組を学期に１回実施。 ・体育実技研修を年４回実施。	B	B	B	○運動量を確保し、活動内容・活動場所を配慮した体育学習を実施することができた。 ○江戸川っ子なわ跳びチャレンジウィークでは意欲的に取り組む姿が見られた。また、なわ跳び教室では、できなかった技ができるようになった児童もいた。 ○体力テストはハッピーフレンズのグループを生かし異学年で実施した。	B	○今年度はなわ跳びを通じて運動力を強化すると聞いている。外部講師の藤沢先生の技を見て良い刺激になったと思う。今後もプロの講師を迎え、本物を子供たちに見せてあげてほしい。	B	○運動量を確保し、活動内容・活動場所を配慮した体育学習を実施することができた。水泳指導は学年単位で実施。夏季水泳指導は６日間実施したが、熱中症警戒アラートがでたため、実施できたのは１８回中１０回であった。 ○なわとびや跳び箱、水泳指導について教員研修を行い指導力向上に努めた。 ○体力テストはハッピーフレンズのグループを生かし異学年で実施した。	A	○プロバスケットボールクラブのコーチを講師として招いた実技指導は、子供たちの意識を高める良い機会となった。講師の「夢をかなえるためには選択肢を増やすことが大切」や「選択肢を増やすためには勉強も必要」といった言葉から、体力づくりだけでなく、勉強の大切さも学ぶことができたと思う。 ○今年度は区の施策として、縄跳びを活用した体力づくりに力を入れている。子供たちが楽しみながら身体を動かしている様子が見られるので、今後も継続してほしい。	○水泳指導については今年度の実態を踏まえ、１学期で終えられるよう計画する。夏季水泳指導は実施しない。行事ごとの教員の反省をしっかりとり、次年度に向けてより良い提案ができるようにしていく。 ○区の施策としての縄跳びチャレンジウィークや縄跳びの出前授業を、本校に合った計画を立てて実施していく。
	・より良い学習・生活習慣の育成	・生活リズムカードの実践と分析	・学期に１回実施 ・家庭との連携のもと、児童が自分で良い生活習慣を選び、行動する力を養う。	B	B	B	○7日間目標をもって取り組むことができた。朝食欠食や寝る時間については課題があるため、引き続き家庭と連携していく。	B	○子供だけでなく大人も一緒に学んだり、より良い生活を送ったりすると良い。 ○生活リズムカードの取組はもう少し長め（２週間など）でも良いと思う。	B	○保健だよりでの啓発や年に2回の生活リズムカードの取組を実施することで、保護者への働きかけをすることができた。家庭によっては担任より個別の声かけを行っていく必要がある。	B	○生活リズムカードの取組時期を、長期休み後半から実施してはどうか。その方が学校が始まる前に早寝早起き等を意識させることができるのでは？	○引き続き家庭と連携しながら実施する。 ○取組期間をもう少し長めに設定する。
共生社会の実現に向けた教育の推進	**・特別支援学級との日常的な交流**	・通常学級とはこべ学級の交流授業 ・行事での連携（学年とはこべ学級で合同）	・週１回～週２回程度の交流授業。 ・体育学習発表会や生活科・社会科見学、宿泊行事での連携。	A	A	A	○実態に合った交流学習、体育学習発表会での合同練習や発表を行うことができた。 ○生活科見学、社会科見学、町たんけん等、学年とはこべ学級の連携は図ることができている。 ○休み時間の鬼ごっこ等、学年・通常学級・特別支援学級を問わず、遊んでいる姿が見られる。	A	○通常学級と特別支援学級の交流は、篠三の特色である。自然と心の教育が行われていると思う。	A	○実態に合った交流学習、体育学習発表会での合同練習や発表を行うことができた。 ○特別支援校内委員会は月１回以上開催した。特別支援教室専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等も参加し連携を図ることができた。 ○副籍交流は、学校応援団のウエズレーの会とも連携し読み聞かせを行った。他にも学習発表会を鑑賞することで交流を図った。今後も保護者や学校とも相談しながら活動を実施していく。	A	○特別支援学級との交流やハッピーフレンズ活動の実施で、子供たちは、人それぞれ違うことを自然に受け入れ、支え合い、認め合うことができていると思う。今後も続けてほしい。	○今後も児童の実態に合った交流学習や行事での関わりを実践していく。 ○副籍交流は、読み聞かせの他、外国語活動も実施することができた。今後も保護者や学校とも相談しながら活動を実施していく。
	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用 ・特別支援教育研修の実施	週に１度、校内巡視後、効果的な指導・場面について情報共有。	B	B	B	○特別支援教育専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等と連携を図り、個に応じた指導について情報共有を図ることができた。 ○研修は１０月１８日に実施予定。	B	○専門的な知識をもったいろいろな立場の方との連携を図り、その子や家庭に合った支援が受けられるようにしていきたい。 ○かえで教室の情報を知りたい。	B	○特別支援教育専門員や巡回指導教員、SC、巡回心理士、SSW等と連携を図り、個に応じた指導について情報共有を図ることができた。	B	○今後も先生方や心理士等専門的な知識をもった方とが連携し、子供たちがその子に合った指導が受けられるようにしていってほしい。	○個に応じた指導について今後も情報共有していく。巡回指導教員だけなく、日常的に特別支援学級教員が工夫していることも共有していく。
	・エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・保護者会などの機会を通じ、エンカレッジルームを周知。 ・HPに掲載。	C	C	C	○９月よりエンカレッジルームの運用を始めた。今後も利用状況を見ながら改善を加えつつ運営していく。	B	○エンカレッジルームの設置はとても良いことだと思う。その効果も検証できると良い。 ○知らない保護者もいると思う。周知できると良い。	C	○児童への居場所として周知をしたが、積極的な利用にはつながらなかった。今後も改善を加えつつ運営していく。	B	○エンカレッジルームの活用が生かされていないことの問題点を整理し、改善策を考えていくことは重要だと思う。この制度を求めている児童は多いと思う。	○保護者会・個人面談等でエンカレッジルームについての周知を行う。今後も改善を加えつつ運営していく。
不登校・いじめ対応の充実	**・不登校対策の実施・充実**	・生活指導夕会における情報の共有 ・生活指導全体会における情報の共有	・週に１度開催。 ・学期に１度開催。	B	B	B	○生活指導夕会、全体会等、定期的に行い情報共有を図り組織的に対応できている。 ○いじめ対策委員会・不登校対策委員会では、関係機関と連携を図ることができた。 ○関係機関との連携により、以前より状況の改善が見られた。	B	○徹底的に児童に寄り添う対応を今後もお願いしたい。	B	○生活指導夕会、全体会等、定期的に行い情報共有を図り組織的に対応できている。 ○いじめ対策委員会・不登校対策委員会では、関係機関と連携を図ることができた。いじめ件数は減少していることや本校の取組をHPで報告した。	B	○エンカレッジルームの活用を改善していくことは、不登校対策の一助になると思う。数名の児童に対して力をいれていくことは負担になるかとも思うが、その対応をすることで全体の児童に対する考えや対応も変わっていくと思う。	○今後も生活指導夕会、全体会等、定期的に行い、情報共有を図り組織的に対応していく。また、会以外にも、教員同士で共有を図っていく。
	・いじめ・不登校の未然防止・早期対応に向けた取組の充実	・いじめ対策委員会・不登校対策委員会の開催	・月に１度の開催、SCや巡回心理士も交えて対応策を検討する。	B	B	B	○月に１度開催し、対応策を検討している。SCや巡回心理士、SSW,児童相談所等と連携を図ることができた。	B	○今後も関係機関との連携を図り、いろいろな視点で子供たちを見守ってほしい。	B	○月に１度開催し、対応策を検討している。SCや巡回心理士、SSW、児童相談所、教育研究所、スクールロイヤー等連携を図ることができた。	B	○今後も関係機関との連携を図り、いろいろな視点で子供たちを見守ってほしい。	○教科担任制により学年の教員が学年の児童を見ていくという意識が高まっている。より多くの目で子供たちを見ることでいじめ・不登校の未然防止・早期対応を行う。 ○会議の記録をしっかりと残し、学年が変わっても情報を引き継いでいく。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	**・自校（園）の取組の積極的な発信**	・年４回の学校公開の実施、学校説明会の実施 ・HPの更新	・HP更新目標<br　校長日記→毎日<br　学年のページ<br　→２週間に１度	A	A	A	○今年度より教室の中に入って授業を参観可とし、より近くで子供たちの学習の様子を感じてもらえるようになった。 ○校長日記を毎日更新し、学校の様子を日々伝えることができた。	A	○学校公開は通常の実施に戻りながらも受付にて名札の確認や記帳の実施にて、新しい形で安全対策を実施していることは良い。 ○ホームページで学校の様子が公開されているのは、保護者にも教職員にとっても良いことだと思う。	A	○校長日記を毎日更新し、学校の様子を日々伝えることができた。 ○行事後のアンケートを実施し、ご意見を今後に活かしていく。	A	○校長日記は楽しみにしており、学校の様子を知ることができている。	○行事後のアンケートを実施し、ご意見を今後に生かしていく。
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会の実施（年３回） ・行事後アンケート実施 ・学校評価実施	・行事・学校公開後の保護者アンケート実施。 ・保護者・教員の学校評価実施（年１回）	B	B	B	○６月に学校評議員会を設け、学校評議員の方からのご意見を伺い、児童の授業の様子を参観していただけた。今後の学校運営に生かしていく。	A	○実際に子供たちの様子を見ることができるのは嬉しい。	B	○６月、１１月、２月に学校評議員会を設け、学校評議員の方からのご意見を伺い、また児童の授業の様子を参観していただけた。今後の学校運営に生かしていく。	A	○子供たちの学習の様子を見ることができて良かった。３学期ということで成長を発表する場面が多かった。保護者も嬉しく思ったのでは。	○今後もご意見を伺い、次年度の学校運営に生かす。
	・地域と連携した学習活動・体験活動の充実	・篠田堀親水緑道・江戸川の自然、生き物、歴史、環境を題材にした学習活動	・年１回以上の実施 ・学習したこと、そこからうまれた疑問や分かったことをまとめ、学級や学年、異学年児童に向けて発表する活動を実施	A	B	B	○予定通り実施することができている。夏季休業日中には、篠田堀３０周年の記念イベントを本校で行い、６年生の篠田堀を描いた図画工作作品や金管バンドの演奏で彩りを添えることができた。	A	○６年生の職場体験では地元の商店街を始め、近隣の事業所２０ヶ所が関わっていた。地域と学校の関わりが強くなることはとても良い。		○予定通り地域と連携した活動を実施することができた。 ○学校応援団については、６年生の職場体験の引率補助や書き初め大会支援や家庭科の授業支援、金管バンド支援など、多くの方に助けていただくことができた。	A	○子供たちが職場体験や地域のイベントに参加することで、地域や保護者とのコミュニケーションを深められていると感じた。 ○中学校に数年前掲示板がつくられたが、小学校にもできると良い。地域の方に見ていただけたらと思う。	○今後も地域との連携を図った教育活動を実践していく。 ○次年度は自治会の長の方たちとの集まりを企画し、学校公開を参観していただいたり、学校応援団への協力を依頼したり等、より一層の連携を図る。
特色ある教育の展開	**・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施**	・会議の精選。 ・時間に対する意識の向上 ・ICTの活用 ・教員以外の人材活用と連携	・授業準備の時間を確保。 ・プレミアムDayの設定と実施（定時退勤日）。 ・月残業８０時間の教員をゼロへ。	B	B	B	○校務分掌組織の改善や会議の精選、連絡掲示板やTeamsの活用、人材の活用により、月残業平均時間は概ね４５時間程度となっている。しかし、教員によって偏りが見られるので、次年度に向けて原因を分析していく（分掌の偏り等）。	B	○教員の仕事はブラックのイメージが強いので、いろいろな工夫により残業時間は以前より少なくなっていると聞いて良かったと思う。	B	○校務分掌組織の改善や会議の精選、連絡掲示板やTeamsの活用、人材の活用により残業時間に大幅な変化は見られない。しかし、在校時間の長い教員が固定してきているので、学校安全衛生委員会の議事録を共有し在校時間が長いと病気になるリスクが高いことを伝えた。今後も子供たちのために教員が健康な生活を送ることの大切さを伝えていく。	B	○先生方には、子供たちが楽しみながら学べる授業をしていただいたり、児童に寄り添い関わっていただいたりと大変お世話になっている。今後も、子供たちのために健康に気を付けて頑張ってもらいたい。	○今後も、「学校における働き方改革プラン」に基づき、取組を実施していく。 ○校務分掌を、経験年数や担当学年によって負担が偏らないように考慮していく。引継ぎも考えて担当を決定していく。
	・異学年集団での活動の充実	・篠三まつり ・ハッピーフレンズ ・クラブ活動 ・委員会活動 ・登校班会議での顔合わせと登校班での登校	・９月実施 ・年間7回実施 ・年間10回実施 ・年間10回実施 ・4月.10月.3月実施。	A	A	A	○１学期は登校班、縦割り班、クラブ活動、委員会活動を予定通り実施することができた。	A	○定期的な交流があるのは良い。 ○篠三まつりでは児童が考え工夫した店舗が並び、いろいろな人の気持ちを考えながら運営したり楽しんだりすることができたと思う。 ○全校朝会では学校や校外活動で活躍した児童を表彰しているのは素晴らしい。	A	○１～３学期全て、登校班、縦割り班、クラブ活動、委員会活動を予定通り実施することができた。	A	○これからも活動を充実させていってほしい。 ○篠三小の特色として給食（食育）はとても魅力的で素晴らしいと思う。「郷土料理」「地産地消」「タイムスリップメニュー」「季節のメニュー」等子供たちが興味をもちやすい内容が取り入れられていると思う。	○今後も異学年交流を充実させていく。